

(様式1)

九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者推薦申し出様式

私達は九州大学大学院医学研究院保健学部門長  
選考内規第10条第1項第二号の規定に基づき、  
下記の方を部門長候補者として推薦いたします。

なお、推薦に当たっては被推薦者の同意を得  
ていることを申し添えます。

氏名 諸隈 誠一



令和 5年 11月 8日

推 薦 人

所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 橋口 暢子



所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 有村 秀孝



所属・職・氏名・印 保健学部門・教授 重藤 寛史



※注 推薦人は、令和5年11月22日現在、在籍している以下の者とする。  
保健学部門の専任の教授、准教授、講師、助教及び准助教

受付

令和 5年 11月 8日

選挙管理委員会委員

有村 秀孝



九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者推薦申し出様式

私達は 諸隈誠一教授 を九州大学大学院医学研究院保健学部門長候補者として推薦する理由を、以下のとおり提出します。

令和 5年 11月 8日

氏名 橋口 暢子

氏名 有村 秀孝

氏名 重藤 寛史



推薦理由 (400字以内)

諸隈誠一候補者は、2018年に保健学部門教授として赴任し、在籍6年目となる。これまで、学部および大学院修士課程・博士後期課程の運営と発展に大きく貢献してきた。

学部教育では、解剖生理学等の3分野共通の医療系基礎教育科目のみならず、看護学専攻の学部生に対する臨床病態学等の学部専門科目教育に加え、基幹教育科目である国際保健と医療、大学院では先端医療論等の専門科目教育など多くの科目にも携わってきた。これまで指導を行った修士、博士の学生は、九州大学病院等の大学病院、地域基幹病院、大学医学部等、臨床、教育の場で活躍している。

また、九州大学改革活性化制度に採択され2020年より周産期保健医療開発及びグローバル人材育成にも尽力し、その成果が高く評価されている。さらに、部門内のみならず、九州大学病院併任講師として産科婦人科の周産期領域における臨床指導・教育にも貢献している。

少子高齢化等の我が国が抱える課題に対して、大学には、保健・医療・福祉において対応できる高度専門医療職の人材育成が求められており、本学において3分野の専門領域を連携できる保健学部門の意義は大きいものがある。

保健学の特色を活かし、これまでの経験を本部門の発展に尽力できる人材として、ここに諸隈誠一教授を保健学部門長候補として推薦する。

選挙管理委員会委員

受付 令和 5年 11月 8日 有村秀孝



所信表明

氏名 諸隈 誠一

この度、橋口暢子教授、有村秀孝教授、重藤寛史教授の推薦を受け、保健学部門長に立候補させていただくこととなりました。

私は1996年に本学医学科を卒業後、産科婦人科学教室に入局し、周産期医学を専門として、臨床、研究、教育に従事してきました。この間、より良い医療を実現するためには、研究、教育、さらに多職種連携が重要であることを深く感じておりました。

2018年に保健学部門に赴任以降は、保健学科の学部生・大学院生の教育と研究の指導に携わってきました。保健学部門の運営においては、2020年度には教務委員長としてコロナ禍における遠隔講義の実施準備等を行い、また広報委員長として職務を実行する過程で、3専攻の多様性のある教員が協力し、事柄を成し遂げる素晴らしさを実感しております。

保健学は、人々の健康と幸福に貢献する学問であり、我が国が直面している少子高齢化、健康課題に対して社会に果たす役割は大きくなっています。また、単なる有資格者の育成にとどまらず、高度な専門性および広い視野を持つ人材の育成が必要とされています。看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻の多様性を活かして、教育、研究、国際化の各領域で国内トップレベルの教育研究機関として更なる発展を遂げることに貢献したいと考えています。

保健学部門の運営で私の目指すところを以下に述べます。

・教育

高度な専門知識を備え、個別化する医療において指導者となる人材の養成、特に研究マインドと高い志を持った高度な医療人の育成を目指すとともに、他職種の理解と相互協力に積極的な人材、包摂性を兼ね備えた人材の育成を図って参ります。

・研究

保健学部門内の3分野の連携や特に若手教員の研究を推進するため、分野間、施設間、産学官民等での共同研究を進め、3分野で連携した研究を推進し、「保健学」としての研究領域を確立したいと考えています。また、臨床現場との協力体制もさらに進め、抽出される研究課題の解決に向けた取組も進めて参ります。

・国際交流

これまで進めてきた海外提携校との学術交流協定、国際共同研究、短期留学の受け入れ・派遣、海外学会発表、国際フォーラム、留学生受け入れなど保健学部門における国際化を一層進めて参ります。

上記3点を中心として、3分野の皆様の力を結集して、これまで、多くの先生方のご努力によって発展してきた保健学部門のさらなる発展に、微力ながら貢献できるよう努力する所存です。